

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

16 男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



野田町は、人口3,635人、高齢化率40.17%（R5.8.1現在）で、平成18年に出水市に合併以前はひとつの町として運営していたため、地域内で完結、まとまりある地域ではあるが、車両がないと不便な山間部もある。



取組のきっかけ

高齢者を対象にした活動が多数展開される中、グラウンドゴルフを楽しむ男女比は半々であるのに対し、その他の活動は、参加者の約9割が女性である。

また、高齢者訪問で、男性は女性に比べて他者とのコミュニケーションを苦手とするがゆえに、地域交流が希薄な方が多いと感じた。

そこで、男性に特化した事業を模索し、男性限定で少人数の活動を実施することとした。

取組の目的

- 閉じこもりではないが、日中一人で過ごしている男性に外出を促し、他者との交流を通して介護予防につなげていく
- サロンの活動が高齢者同士の交流の場になり、脳の活性化や運動不足の解消に繋がる
- 定期的な活動により、生活や健康の変化に気づき、安否確認が出来る

これまでの経緯

| 年・月 | 出来事 |
|---------|---|
| 令和4年12月 | 他者との交流が希薄な高齢男性の存在が気がかりで「何か出来ないかと模索している時、ボランティアグループ《さわやか会》から活動希望の相談。 |
| 令和5年1月 | 高齢男性を対象にした新規事業案を《さわやか会》代表と検討を重ねるが、会員の年齢層が高く、《さわやか会》による活動支援は困難と判断。 |
| 令和5年2月 | 新規事業「男性の通いの場」の実施要綱（案）を作成。2層協議体である野田地区高齢者生活支援推進協議会にて説明し、全員の同意を得る。 |
| 令和5年3月 | 高齢者訪問員の協力にて対象者をリストアップ。声掛け訪問で参加者を募る。活動場所・活動ボランティアを確保。 |
| 令和5年4月 | 登録者の緊急連絡先など情報、及び緊急時も含む活動時のマニュアル作成。 4月28日 事業開始。大型車で送迎や健康チェックの対応に問題あり。 |
| 令和5年5月 | 軽車両でピストン送迎・コミュニティルームでの健康チェックなど問題点を修正し、5月12日、実施。 |

活動の概要

2層協議体の実施主体となり、社会福祉法人とボランティアが協働し、男性限定（要支援介護認定を受けていない65歳以上の男性）のドライブサロンとして外出支援、買い物支援を実施している。

2層協議体：事業主体として、登録者の利用状況を管理、運営。
社会福祉法人：車両提供、担当2層SCが運転手兼運営支援
市民ボランティア：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 月1回（第4金曜日 午前9時～13時）茶話会、体操、ドライブ、買い物を実施する。
- 利用人数 7名
- 利用料金100円

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、野田地区高齢者生活支援推進協議会、社会福祉法人双葉会、市民ボランティア協力者、鹿児島相互信用金庫野田支店（集合場所の無償提供）、社会福祉協議会

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 第2層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 活動時、車両の運転
- 毎月の活動内容の企画や連絡調整、有志への連絡、実施前日の声掛け等



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

参加者全員が自宅の外で迎えを待ち、活動中、皆が笑顔で語り合うなど、いつも一人で過ごし、友達と呼べる仲間もいなかった方々が月に1回の「男ん衆で楽しも会」の活動を楽しんでいる。

〔課題〕

- 閉じこもりがちの方に（外出して他者との交流）を促すことの難しさ。
- 今後、希望者が増えた場合、事業をどのように行っていくか。協力事業者を募れるか。